

2020年8月30日(日)朝10:10
8月第5共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第14、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**触れた者は、皆いやされた(36～)**

聖書:マタイ 14章34～36節

<口語訳>

新約聖書23～24頁

マタイ 14章34～36節

<新共同訳>

新約聖書29～ 頁

マタイ 14章34～36節

<新改訳第3版>

新約聖書29～ 頁

マタイ 14章34～36節

<塚本訳>

新約聖書112～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ14:34～36節**の「**触れた者は、皆いやされた(36～)**」とのことばから、主とともに生きる恵みを味わい、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)を知りたいと思います。
- ⇒「**触れた者は、皆いやされた(36～)**」のは、ガリラヤ湖の向こう岸、ゲネサレまでついて来た群衆です。
- ⇒群衆は、ガリラヤ地方の人々で、「地元の人イエス」だと知って、「周辺の地域にくまなく知らせ」て、「病人を連れてきた」のです。
- ⇒彼らの関心は、「癒し」で、「その服のすそにでも触れさせてほしい」一心でした。群衆は、関心事がなくなれば、潮を引くように去って行くものです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ただただ静かに群衆に仕えて下さったのです。

本論；

◇本日、**マタイ書14:34～36節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ14章34～36節**；**使徒マタイ**は、「**安心なさい**(27～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を知る舟旅を描いています。

◇**14:34～36節**；**塚本訳**◆**湖の上を歩く**

「34 ついに(湖を)渡ってゲネサレの地に着いた。

35 所の人はいエスと知って、その付近に隅なく人をやっ(て知らせ)たので、人々は病人を皆イエスのところにつれて来て、

36 せめて着物の裾にさわらせてほしいといエスに願った。さわった者はみな直った。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ14:34～36節**；**御子イエス・キリスト様**と弟子たちは「ついに(湖を)渡ってゲネサレの地に着いた(34)」。(地元の)「所の人はいエスと知って、その付近に隅なく人をやっ(て知らせ)たので、人々は病人を皆イエスのところにつれて来て(35)」、「せめて着

物の裾にさわらせてほしいとイエスに願った。
さわった者はみな直った(36)」のです

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たち」に、
「**御子イエス・キリスト様**」のように生きる姿を
見せて下さいました。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちが同じ
ようにできると期待しておられたのではなく、
神のしもべは、仕える者であることをお示しに
なりたかったのです。

⇒弟子たちは、主が、十字架の死を決断して
おられることは、感じていたと言われています。

⇒「主よ、お助けください」(30)と、叫んだ、自分
たちの弱さ、脆さは痛いほど分かっていたので、主のわざを静かに見守るだけでした。

⇒「せめて着物の裾にさわらせてほしいとイエス
に願った。さわった者はみな直った」という主
のわざの事実と「**御子イエス・キリスト様**」の
中にある「**神の聖霊**」(「**神(天)の国**」・「**神の
真理・真実**」)を見ることが大事です。

⇒主のわざとそれを同じようにできない自分を
対比するのではなく、罪を告白して、主にお
仕えできることを讃美し、祈ることです。

⇒できないのにできる振りをするのは、偽善・偽悪です。まして、自分をわきまえないで、説教したりするのは、傲慢です。

⇒**OA師**が仰せのように、渦巻く死の海を見て、それを踏み砕いて、委ねた(ペテロ)の手を捕まえて、引き上げて下さる・・・イエスの確かさ故に、私の命は天に錨を下ろして不動の確かさを持つのです。

⇒**KT師**は、「しっかりするのだ。恐れることはない」という言葉・・・大事な言葉は、「わたしである」という言葉です。「わたしである」は、「わたしがここにいるということです」と仰せです。信仰というのは、イエスの言葉を信じるものです。イエスの命令だけに生きるものです。

⇒逆風について、舟に乗って、弟子たちは、主イエスと共に反対側の岸にいます。ここにも、病めるひとがたくさんいたからです。・・・イエスと共に、「舟を降りて、なお歩き続ける教会のすがたがあります(**KT師**)。

⇒ヨハネ6:37 【口語訳】

父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して

拒みはしない。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は**マタイ14:34～36節**の「**触れた者は、皆いやされた(36～)**」とのことばから、主とともに生きる恵みを味わい、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」を知りたいと思います。
- ⇒「**触れた者は、皆いやされた(36～)**」のは、ガリラヤ湖の向こう岸、ゲネサレまでついて来た群衆です。
- ⇒群衆は、ガリラヤ地方の人々で、「地元の人イエス」だと知って、「周辺の地域にくまなく知らせ」て、「病人を連れてきた」のです。
- ⇒彼らの関心は、「癒し」で、「その服のすそにでも触れさせてほしい」一心でした。群衆は、関心事がなくなれば、潮を引くように去って行くものです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ただただ静かに群衆に仕えて下さったのです。

⇒5000人の給食の奇蹟の後、「**御子イエス・キリスト様**」を王としたいと思った群衆は、癒しなどに専念されるのを見て、失望し、去って行きました。

⇒それでも、癒しを期待して、押寄せて来る群衆の期待に応え、弟子訓練を後回しにしても、癒しを行われました。

⇒ヘブル6:9～10【口語訳】

9 しかし、愛する者たちよ。こうは言うものの、わたしたちは、救にかかわる更に良いことがあるのを、あなたがたについて確信している。

10 神は不義なかたではないから、あなたがたの働きや、あなたがたがかつて聖徒に仕え、今もなお仕えて、御名のために示してくれた愛を、お忘れになることはない。